

つくしとり



20230516



エリー



目次

描写	1
説明	2

描写

春子は春の河原でつくしを摘んだ。

一面に咲くつくしをとり尽くすため、無心で取り続けた。

たくさん取ったとほめてくれるだろう。春子は期待に胸を弾ませた。

祖父が迎えに来た。

「みて。こんなにとったよ！」

頭に強い痛みが走った。

「ばかもんが！」

祖父にげんこつをくらったときとる。

「神さまからのいただきもんをこげんとるやつがあるか。つくしが死に絶えちまう」

春子はハッとした。

1つ残らず食べ尽くしたら、来年はこの河原に生えてこない。

悪いことをした。

春子はちぎったつくしをくっつけようとした。

「あほ。もう遅いわ。取った分は食べ。残りには手を出すな」

つくしを抱えて祖父は歩き出した。

祖父がとり尽くす前に来てくれてよかった。

まさかわかったた？

まさかね。

春子はぶっきらぼうな祖父の後を追いかけた。

説明

食べ物を探して歩いていた大昔は、定住することができませんでした。

植物はたくさんの種をつけます。

生えている半分食べても、半分残せばだんだん増えていくくらいの繁殖力があります。

しかし食べ尽くしたらゼロになります。

つくしとり

著 ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
